

## ピレネー山脈国境横断ハイキング

2014年8月、天溪の赤沼代表をリーダーとする「ピレネー山脈フランス・スペイン国境横断ハイキング」に参加したので、その顛末を記す。歴史的な巡礼街道の雰囲気を感じ、ワインと美味しい料理を楽しみ、数々の世界遺産を訪れ、フランス・スペインの国境を越え、ガウディ、ピカソの芸術に触れる旅である。筆者・浅野が幼少の頃に流行った歌からスタートしよう。多分、知っている人は少ないだろう。

♪♪ ピレネーの山の男よ いつも一人何を想う

雨降れば小屋の小鳥に ひげ撫でて昔を語る

ハイホー ハイホー 思い出の愛の駒鳥 ♪

詩：西條八十 曲：古賀政男

**8月20日（水）** カタールの首都ドーハに羽田空港からのメンバー14名（含む赤沼氏）、関西空港からのメンバー5名（含む筆者・浅野）が集結した。サッカーファンの筆者としては、どうしてもあの「ドーハの悲劇」を思い出してしまう。1993年10月、ドーハで行われたサッカーW杯アジア最終予選の日本対イラク戦、日本が勝てば史上初のW杯出場を決める試合であった。2対1で日本がリードして後半のロスタイムに入る。ラモスのパスをカットしたイラクが、コーナーキックからヘディングシュートを決め同点とする。この直後に試合終了、日本初のW杯出場は夢と消えたのである。筆者は悔しさからその夜一睡もできず、翌朝眠い目をこすりながら出勤したのを昨日のことのよう覚えている。

ドーハに集結したメンバー19名は、カタール航空にてスペインのバルセロナに向かう。



「これからの行程」

バルセロナ → カルカソンヌ(泊) → ルルド → コトレ(泊) → ゴーブ湖 → コトレ(泊) → ガバルニー圏谷 → ガバルニー(泊) → タンテ峠 → ザラドゥ小屋(泊) → ローランの裂け目(国境) → ゴリッツ小屋(泊) → オルデサ溪谷 → トルラ(泊) → モンセラート → サグラダファミリア → バルセロナ(泊) → ドーハ → 成田・関空

筆者は生まれて初めてスペインの地に一步を印した。妻の甥が日本人でただ一人の闘牛士をやっていて、スペイン南部に住んでいるのだが、これまで訪れることはなかった。彼は以前東山紀之の ZONE で紹介され、その番組を見て感動した女性が彼の妻となった。

バルセロナ空港からバスで今夜の宿泊地カルカソンヌ(仏)に向かう。途中国境を越えるが、同じEU内で何の関門もない。

カルカソンヌ Carcassonne の名前は、カール大帝がこの都市の攻略をあきらめ撤退するとき、当時街を治めていた女領主カルカス Carcas が勝利の鐘を鳴らした sonner ことに由来するという伝説がある。カール大帝が攻略をあきらめたのは、カルカスが豚に小麦を食べさせて太らせ、塔から投げ捨てた。これを見たカール大帝とその部下たちは、太った豚を惜しげもなく捨てるのだから、城内にはまだ十分な食料があるに違いないと考え、撤退を決めたのだという。

1997年に「歴史的城塞都市カルカソンヌ」としてユネスコの世界遺産に登録された。それ以降、フランス国内ではモンサンミッシェルに次ぐ来訪者数を誇る。カルカソンヌの町は、市内を流れるオード川を挟んで、下町と城塞に囲まれたシテ Cite に分かれる。

下町にある4つ星ホテル Les Trois Couronnes から、オード川の向こうの Cite を望む。



カルカソンヌ泊

8月21日（木）午前中、カルカソンヌの城塞内 Cite を見学する。

女領主カルカスの像



城塞内の建物



城塞から下町を望む

城塞



午後は、今夜の宿泊地コトレに向かう。途中聖母マリアの出現と奇跡の泉で知られるルルド Lourdes（写真右）に立ち寄った。



1858年2月11日、ポー川のほとりにある洞窟の近くに薪を集めに来た14歳の少女がいた。その名はベルナデット・スビルー。突然彼女の前に現われた聖母マリアは、その後17回にわたって同じ場所に出現し、ある日「泉へ行って水を飲み、顔を洗いなさい」と命じた。洞窟近くの地面を掘ると泉が湧き始め、その湧き水によって病気が治癒する奇跡が何度も起きたといわれる。それから、ルルドは170カ国から年間600万人が集まるカトリック最大の巡礼地、特に病をもつ人々にとって重要な聖地となった。



写真（田中さん撮影）は聖母が出現したといわれるマサビエルの洞窟。奇跡の泉はマリア像の左下奥にあり、今でもこんこんと水が湧いている。洞窟手前の水場には泉の水を引いた蛇口がいくつも並んでいて、筆者もペットボトルに奇跡の水を入れた。

無原罪のお宿り聖母教会



車いすに乗った病気の人々と、それに付き添うナースが多数来ており、これから山に登る我々としては、非常に複雑な心境となった。

ルルドから更に南下（国境方面）し、夕刻リゾート地であり登山基地でもあるコトレ Cauterets に到着。ホテル Le Bois Joli 前でバスを降りたら「いらっしゃいませ」と言う声がしたので振り返ると、何と日本人女性ではないか。ホテルの主人の息子が、以前浜松で働いていたときに結婚し、今は夫と一緒にこちらで暮らしているということだ。1歳前後の子供もいた。こんなところに筆者と同じ静岡県人が住んでいるとは思ってもしなかった。



コトレの街並



左：ホテル近くのレストラン Brasserie de Bigorre での夕食風景。スペイン人と思しき男女が歌とギターの生演奏をしている。すぐ横のカウンターバーでは、演奏に全く関心を示さず飲んでいる連中がいる。日本人のように相手を思いやる気持はないのだ。気を使う人生なんて「まっぴらごめん」ということだろう。

右：明日から始まるハイキングに向け、安全を祈願して赤ワインで乾杯！！

ワインの本場ボルドーからコトレまでは、直線距離で200kmしかないのである。

コトレ泊